

行政区ごが知りたい

矢板市にある六十八の行政区。このコーナーでは、かわら版記者が注目した各行政区独自のとりくみや歴史などをご紹介いたします。

矢板一区

矢板市には、一区から六区まで、「区」のつく行政区があります。一区ってどの辺なんだろうという素朴な疑問を持たれた方はいませんか？

そこでその疑問を解消すべく、区長の高橋易勇さんにお話をうかがいました。

◆矢板一区ってどこにあるの？

一口で言えば市役所の周辺。地番としては、矢板市矢板と本町の一部が含まれ、県道を挟んで東に少しと西は現在工事中の矢板バイパスまで。以前は京町とも呼ばれていました。

◆昔は文教のまち、今は公共と文教のまち

今から約五十年前には、市役所（当時は町役場）は別な場所にあり、今の市役所の敷地は以前は女学校で矢小と女学校が向かい合わせに在ったようです。そして北側の駐車場のところには塩谷庁舎がありました。

その後、

昭和三十三年に市制が施行され矢板市になった四年後に市役所



が今の地に移り、川の反対側には、文化会館、公民館が、そして矢板小学校（一部分）や図書館、シルバード大学校と公共施設と文教施設があり、市民の生活と憩いに必要な施設がまとまっているところ。多くの市民がここを利用しています。

◆これからの一区は？

先月四月末にオープンした道の駅エコモデルハウスと、来年春には矢板バイパスの開通と共に「道の駅やいた」が開業します。

現在道の駅の目玉商品の開発に関係者は苦労されていると、どういった特徴のある「道の駅」が誕生するか楽しみです。またそれにより、矢板市民だ

けでなく多くの市外からの人たちが来場することでしょう。

◆行政区としての課題は？

このような周辺環境の一区ですが、約二〇〇人の区民に小学生が七、八人しかいないので、育成会も二区と合同で組織している状況です。若い人が少ないというところは、事業を計画しても参加する人が少ないので、継続が難しい。そんな事情から行政区としての活動が少ないのが実態です。まちなかの行政区だからこそその悩みをお話していただきたいです。



オープンしたエコモデルハウス

大槻行政区

前号では市の一番東にある豊田行政区を紹介しましたが、一番南はどの行政区だろうと調べてみたら大槻でした。そして、お祭りに熱いという話も

大槻には上と下の二つの行政区がありますが、行事は共同で行っています。二人の区長さんにお話を伺いました。

◆きずな強い大槻区民

上大槻区長の富川輝国氏、下大槻区長の大谷昇氏とも異口同音に「大槻の区民はまとまりが強いので、年に数回のお祭りができる。お祭り好きな区民です。その理由は、ほとんどの区民が昔から居住して親戚付き合いをしていくから」と話してくれました。

石上神社の秋祭り、観音堂の観音さま、日枝神社の秋祭りには、両行政区から一歩ずつ当番を出しお祭りを行っています。そして梵天保存会が中心での梵天祭り、さらには公民館主催による大槻ふれあい祭りも行われています。

◆市で唯一梵天祭りに参加

羽黒山神社の秋祭りに梵天を作り餅やお神酒と共に奉納するもので、町内は担いで廻り（昔は羽黒山まで担いで行ったそうですが）、その後はトラックで羽黒山神社へ運び奉納します。

「梵天保存会」のメンバーが中心になり、二本の竹を切り出し、幣束や細い紙を結びつけ完成させるのに四、五日かかるそうです。

以前は近隣の集落からも羽黒山に奉納していたそうですが、今では矢板市内ではここ大槻だけが続けているお祭りだそうです。

◆公民館活動

大槻の区民は、下合計約六百人。一カ所の公民館で、カラオケ、書道教室その他の懇親の集まりが多く開か



れていて、有効に公民館を活用しています。昨年一年間に延べで二千三百人が利用したそうです。また、「郷里の記録編纂委員会」を結成して、平成十八年と十九年にかけて「郷土の記録Ⅰ 大槻の歳時記」と「郷土の記録Ⅱ 大槻の野仏・石碑」を発行しました。これは、長い年月のうちに培われた伝統・文化を大切に守ってきた大槻ならではの活動で、歴史的背景に裏打ちされた風俗・慣習を後の時代にも伝えられるように記録に残すことにしたそうです。